

長崎の観光に関する調査研究

平成30年8月30日

長崎大学 理事 藤木 卓

t-fujiki@nagasaki-u.ac.jp

コンベンション協会資料から分かること、必要なこと

➤ 提示資料で分かること

- 資料等に表示される事実や傾向は把握できる。

例・日本人の減少が外国人の増加より下回る

- 宿泊客数の減少傾向，海外日帰りは単価アップが必要
- 他多数の内容

➤ 提示資料で分からないこと

- モバイル空間情報統計，IoT活用おもてなし実証事業，ICTを活用した観光動態分析等，各種情報は多様な視点を提供するが，母集団が異なる統計情報であり，それぞれの情報をつなぐ分析が難しい。
- 対象とする観光客（クルーズ船，その他？）の，事前の期待度と観光後の満足度

➤ 必要なこと

- 観光客の事前の期待度と観光後の満足度の調査
- 対象者の期待度を高めること（長崎へ行きたいと思う人を増やす）
- 長崎観光へ来た人の満足度を高めること（また，来たいと思う人を増やす）

そこで、

A.観光客の事前の期待度と観光後の満足度の調査

- 観光スポット別の，期待度と満足度の現地調査
- 移動手段別の，期待度と満足度の調査
- その他，ホテル別，飲食店別他の，期待度と満足度の調査
- これらのうち，何を対象とするか？

B.調査研究のための組織

- 長崎大学教員（1名）
- 同学生（数名）
- 観光協会スタッフ（1名）

C.必要経費

- ・会議等経費（方法，データ集計，処理，分析，検討等）
- ・質問紙調査等による現地での調査経費
- ・学生にはバイト代が必要
- ・関連する視察や，情報収集等の旅費等

D.スケジュール

- 企画会議1（8月中）：調査研究概要の共通理解，方針等の確認，既存の調査資料等の読み込み
- 企画会議2（8月中）：既存調査結果の課題把握と，本調査研究で対象とするポイントの絞り込み
- 質問紙準備（9月中）：質問項目の検討，質問紙印刷，調査日時や場所等の検討，スタッフの人選 他
- 現地調査1（10月～11月）：内容により，期間は変動 ※調査終了後，集計と電子化処理へ
- 検討会議1（12月～2月）：結果の分析，結果のまとめ

観光スポット別の期待度と満足度の調査研究

1. 目的

特定の観光スポット（例えば、稲佐山の夜景）に来る観光客を対象として、来る前にイメージしていた期待度と、見てからの満足度（期待に対して、どの程度満足できたか）を調査し、その観光スポットの現状や課題を明らかにする。

2. 調査研究の方法

※現地での聞き取り調査

<調査項目>

- 出身国、性別、年齢層等の基礎情報
- 稲佐山の情報を何で得たか
- 来る前の稲佐山夜景のイメージや期待度
- 実際に見てのイメージや満足度、また来てみたいか

<調査スタッフ>

- 長崎大学教員
- 同学生
- 観光協会スタッフ
- 他に必要なスタッフ（通訳、調査応援）

<調査対象>

- 欧米、東南アジア、中国、韓国、県外の日本人
- 各100名程度（多いほど良い）

3. 結果の分析・考察

<集計>

- 質問紙内容の電子化（可能なら外注）
- Excelのデータとして集計

<分析・考察>

- 調査スタッフによる結果の分析
- 観光スポットの期待度と満足度
- 出身別、年齢層別等での違い
- 結果のまとめ（報告書）